



# ふゆやす 冬休み

## おやこどくしょ 親子読書

図書だより 令和4年2月号  
さくら市立押上小学校

今年度は3回の親子読書にご協力  
いただき、ありがとうございました。

☆は児童の感想、♪はおうちの方の感想です。両面あります。

### 『バナナのはなし』

☆ぼくはバナナがすきなのでバナナのはなしの本をえらびました。バナナのなかのくろいてんがたねとはしりませんでした。

ねんせい 1年生

♪バナナ大好きだもんね。バナナの育て方やバナナの花など、私も初めて知ったことが多かったです。次にバナナを買った時は種を見てもよね。

### 『そらまめくんのベッド』

☆そらまめくんみたいなベッドでねてみたいです。そらまめくんがおともだちとなかよくなってよかったです。

ねんせい 1年生

♪ふわふわベッドきもちよさそうだね。みんなにかしてあげられるそらまめくんがえらいよね。



### 『ゆきがくる』

☆ぼくの家には雪がつもらなかったけど、あそこには雪がつもった。うらやましいなとおもった。

ねんせい 2年生

♪雪国の冬はたくはとても大変だったのだな、と思いました。

むかしの家のストーブやせんたくきなどの絵がとてもなつかしかったです。見開きの工具のせつ明も楽しいです。



### 『ぜつめつききどうぶつ』

☆リョコウバトは50おくわいたそうです。リョコウバトはお肉がおいしくて羽毛が羽毛ふとんのざいりょうとして高ねでうれたそうです。さいごの一羽マーサは1914年9月1

日あつひの午後に止まり木からおち、かかりいんがかけてたときはもうなくなっていたそうです。いっぱいいたいきものでも、とりすぎるとぜつめつしてしまうのだと思いました。

ねんせい 2年生

♪本を読んで、むかしのこと、どうぶつのこと、いまのことやたいせつなこと、いっぱいまなぶことができてすばらしいですね！これからもいっしょにいろいろな本を読んでいきましょう。

### 『自然の一生図鑑』

☆(前略)とくにぼくが気に入っているお話は火山でした。

火山は地下の深いところに火山の力の源のマグマだまりがあるようで、地下のマグマだまりが空っぽになると活動をやめている火山や、何十年もふん火してないけれど、しょう来にはふん火するだろうと予想されている火山のように、火山にもいろいろなものがあることを知りました。

ねんせい 3年生

♪私たちの身の回りには、全てのものには、様々な段かいをた

どって、成長したり変化したりしながら次の世代にバトンタッチ

している事を学べましたね。あたり前のように今、目にしている

虫や花や動物、自然界にあるものに対する見方が変わりました。

### 『ずっとそばに・・・』

☆(前略)けど、そのあとくまさんを動物たちが一人ぼっちにしないようにあつまって、みんなの体に雪がふりつもってお山になってしまつてすごく悲しかったです。

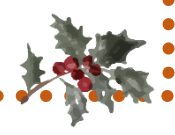
ねんせい 3年生

♪表紙を見た時には、動物たちが森の中で楽しく暮らすお話だと

おもってました。しかし読みはじめてすぐ人間のせいで山の中で住

みづらくなつてしまう事がわかります。悲しいお話でしたが人間

と動物の共存を考えさせられました。

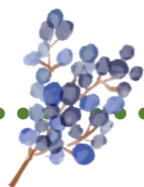


『なつのやくそく』

☆タッチがいねむりしていたら友達<sup>ともだち</sup>の毛<sup>け</sup>がふっとんじゃって、友達<sup>ともだち</sup>の毛<sup>け</sup>でマフラーをプレゼントして、最後<sup>さいご</sup>は、タッチ用<sup>よう</sup>のマフラーをつくったところがほくもいい場面<sup>ばめん</sup>だと思います。ほくもマフラーを作<sup>つく</sup>ってみたいです。

ねんせい  
4年生

♪友達<sup>ともだち</sup>の大切<sup>たいせつ</sup>なものをなくしてしまい、その後<sup>ご</sup>も友達<sup>ともだち</sup>を想<sup>おも</sup>い探<sup>さが</sup>して「ごめんね」と仲直<sup>なかなお</sup>りしていた所<sup>ところ</sup>が印象<sup>いんしょう</sup>的<sup>てき</sup>でした。素直<sup>すなお</sup>に謝<sup>あやま</sup>る気持<sup>きも</sup>ちをもつということを学<sup>まな</sup>んでいってほしいと思<sup>おも</sup>います。



『いのちのおはなし』

☆私<sup>わたし</sup>はこの本<sup>ほん</sup>を讀<sup>よ</sup>んで、一番<sup>いちばん</sup>に感<sup>かん</sup>じたことが自分<sup>じぶん</sup>の時間<sup>じかん</sup>への使<sup>つか</sup>い道<sup>みち</sup>です。私<sup>わたし</sup>の残り<sup>のこ</sup>時間<sup>じかん</sup>はたくさんあります。だからこそ、自分<sup>じぶん</sup>のためになるよう<sup>よう</sup>なことだけではなく、他<sup>ほか</sup>の人<sup>ひと</sup>への心<sup>こころ</sup>づかいをする時間<sup>じかん</sup>をたくさん増<sup>ふ</sup>やしたいです。

ねんせい  
6年生

♪命<sup>いのち</sup>は時間<sup>じかん</sup>。人<sup>ひと</sup>の為<sup>ため</sup>にどれだけ時間<sup>じかん</sup>を使<sup>つか</sup>っているかな。と大人<sup>おとな</sup>でも讀<sup>よ</sup>んでみてハッとさせられました。一日<sup>いちにち</sup>過<sup>す</sup>すだけで自分<sup>じぶん</sup>の為<sup>ため</sup>に、人<sup>ひと</sup>の為<sup>ため</sup>にと使<sup>つか</sup>っている時間<sup>じかん</sup>より無駄<sup>むだ</sup>な時間<sup>じかん</sup>が改<sup>あらた</sup>めてたくさんありました。命<sup>いのち</sup>とは生<sup>い</sup>きているこの時間<sup>じかん</sup>、一瞬<sup>いっしゅん</sup>一瞬<sup>いっしゅん</sup>をどう使<sup>つか</sup>うか。考<sup>かんが</sup>えさせられるお話<sup>はなし</sup>でした。



『10歳<sup>さい</sup>から知<sup>し</sup>っておきたいお金の心得<sup>かね こころえ</sup>』

☆(前<sup>ぜん</sup>略<sup>りやく</sup>)他<sup>ほか</sup>にもいろいろな税金<sup>ぜいきん</sup>があった。おこづかいもすぐ<sup>つか</sup>に使う<sup>つか</sup>のではなく、使<sup>つか</sup>う・ため<sup>ひと</sup>る・人<sup>ひと</sup>のため<sup>つか</sup>に使<sup>つか</sup>う・増<sup>ふ</sup>やす、の4つ<sup>きんばこ</sup>のちょ金箱<sup>つく</sup>を作<sup>つく</sup>ってやるのもおススメらしい。増<sup>ふ</sup>やすお金<sup>かね</sup>は少<sup>すこ</sup>しむずかしいかもしれな



ねんせい  
5年生

♪お正月<sup>しょうがつ</sup>でお年玉<sup>としだま</sup>をいただくのを機<sup>き</sup>に、お金<sup>かね</sup>の仕組<sup>しく</sup>みや使<sup>つか</sup>い方<sup>かた</sup>をこの本<sup>ほん</sup>を通<sup>とお</sup>して考<sup>かんが</sup>える事<sup>こと</sup>が出来<sup>でき</sup>れば良<sup>よ</sup>いと思<sup>おも</sup>います。

『ぼくらの七日間<sup>なのかかんせんそう</sup>戦争』

☆中<sup>ちゅう</sup>学<sup>がく</sup>1年<sup>ねん</sup>生<sup>せい</sup>全<sup>ぜん</sup>員<sup>いん</sup>がけん<sup>りょく</sup>力<sup>も</sup>を持<sup>も</sup>つ大人<sup>おとな</sup>たち<sup>に</sup>にふくしゅうしよう<sup>と</sup>

考<sup>かんが</sup>え校<sup>こう</sup>長<sup>ちやう</sup>先生<sup>せんせい</sup>をめいろへ連<sup>つ</sup>れこみ、そのふくしゅうのしかたがおもしろかったです。あと体<sup>たい</sup>育<sup>いく</sup>の先<sup>せん</sup>生<sup>せい</sup>にむずかしい問<sup>もん</sup>題<sup>だい</sup>をだし、とけなくて、プ



ねんせい  
4年生

ロレスのマネをされた所<sup>ところ</sup>を見<sup>み</sup>てみたかったです。  
♪分<sup>ぶん</sup>厚<sup>あつ</sup>い本<sup>ほん</sup>にチャレンジしましたね。内<sup>ない</sup>容<sup>よう</sup>はク<sup>こ</sup>ラ<sup>ら</sup>スの子<sup>こ</sup>たち<sup>が</sup>大<sup>お</sup>人<sup>とな</sup>との戦<sup>せん</sup>争<sup>そう</sup>をしかけておもしろさが加<sup>くわ</sup>わりワクワクしながら読<sup>よ</sup>み終<sup>お</sup>えました。  
休<sup>やす</sup>み中<sup>ちゅう</sup>、最<sup>さい</sup>後<sup>ご</sup>まで読<sup>よ</sup>み終<sup>お</sup>えなかつたようなので、続<sup>つづ</sup>きも頑<sup>がん</sup>張<sup>ば</sup>って読<sup>よ</sup>んでほしいです。

『遠<sup>とお</sup>くのパパとおへそのママ』

☆両<sup>りょう</sup>親<sup>しん</sup>がいそがしくて、子<sup>こ</sup>どもたち<sup>だけ</sup>で過<sup>す</sup>ごしてました。そこ

6年生

で、子<sup>こ</sup>ども<sup>たち</sup>は、さみしくなっておへそ<sup>つか</sup>を使<sup>つか</sup>って、ママ<sup>かお</sup>の顔<sup>かほ</sup>をかく所<sup>ところ</sup>を見<sup>み</sup>て、子<sup>こ</sup>ども<sup>たち</sup>だけでお留<sup>る</sup>守<sup>す</sup>番<sup>ばん</sup>するなんておりこうですごいなと思<sup>おも</sup>いました。  
♪今<sup>いま</sup>とは違<sup>ちが</sup>い、ス<sup>けい</sup>マ<sup>たい</sup>ホ<sup>こ</sup>や携<sup>こてい</sup>帯<sup>でんわ</sup>がな<sup>く</sup>固<sup>じ</sup>定<sup>だ</sup>電<sup>でん</sup>話<sup>わ</sup>しか<sup>ない</sup>時<sup>じ</sup>代<sup>だい</sup>の兄<sup>あに</sup>弟<sup>にい</sup>  
のお留<sup>る</sup>守<sup>す</sup>番<sup>ばん</sup>の<sup>はなし</sup>話<sup>わ</sup>でした。子<sup>こ</sup>供<sup>ども</sup>2人<sup>り</sup>き<sup>り</sup>で毎<sup>まい</sup>日<sup>にち</sup>さみしいながらも  
工<sup>く</sup>夫<sup>ふう</sup>して、何<sup>なん</sup>と<sup>か</sup>さみしさをまぎらわ<sup>せ</sup>母<sup>は</sup>親<sup>おや</sup>の帰<sup>かえ</sup>り<sup>を</sup>今<sup>いま</sup>か今<sup>いま</sup>か<sup>ま</sup>と待<sup>ま</sup>  
ちわびて<sup>いる</sup>様<sup>よう</sup>子<sup>す</sup>から私<sup>わたし</sup>もど<sup>う</sup>し<sup>も</sup>も仕<sup>し</sup>事<sup>ごと</sup>を優<sup>ゆう</sup>先<sup>せん</sup>さ<sup>せて</sup>しま<sup>って</sup>  
いるな…と反<sup>はん</sup>省<sup>せい</sup>の気<sup>き</sup>持<sup>ち</sup>と、兄<sup>あに</sup>弟<sup>にい</sup>、姉<sup>あね</sup>妹<sup>いもうと</sup>っていいなと思<sup>おも</sup>いまし  
た。



『やなせたかし アンパンマンのゆうき』

☆東<sup>ひがし</sup>日<sup>にっ</sup>本<sup>ぽん</sup>大<sup>だい</sup>震<sup>しん</sup>災<sup>さい</sup>の時<sup>とき</sup>、ま<sup>だ</sup>小<sup>ちい</sup>さ<sup>な</sup>か<sup>つ</sup>た<sup>け</sup>ど何<sup>なん</sup>ど<sup>も</sup>テ<sup>て</sup>レ<sup>れ</sup>ビ<sup>び</sup>を<sup>み</sup>て心<sup>こころ</sup>を  
いた<sup>め</sup>ま<sup>し</sup>た。P. 169に悲<sup>かな</sup>しみ<sup>を</sup>心<sup>こころ</sup>に<sup>し</sup>ま<sup>っ</sup>てとあ<sup>り</sup>ま<sup>す</sup>が、そ  
の文<sup>ぶん</sup>章<sup>しょう</sup>が何<sup>なん</sup>だ<sup>か</sup>つ<sup>ら</sup>い<sup>で</sup>す。

ねんせい  
5年生

♪お友<sup>とも</sup>達<sup>だち</sup>やだ<sup>れ</sup>か<sup>が</sup>困<sup>こま</sup>っている<sup>とき</sup>、ま<sup>っ</sup>さ<sup>き</sup>に<sup>か</sup>け<sup>つ</sup>け<sup>ら</sup>れ<sup>る</sup>  
〇であ<sup>っ</sup>てほ<sup>し</sup>い。た<sup>と</sup>え勉<sup>べん</sup>強<sup>きやう</sup>や運<sup>うん</sup>動<sup>どう</sup>が<sup>に</sup>が<sup>て</sup>で<sup>も</sup>ア<sup>ン</sup>パ<sup>ン</sup>マ<sup>ン</sup>の  
よ<sup>う</sup>な優<sup>やさ</sup>しいヒ<sup>ー</sup>ロ<sup>ー</sup>で!

